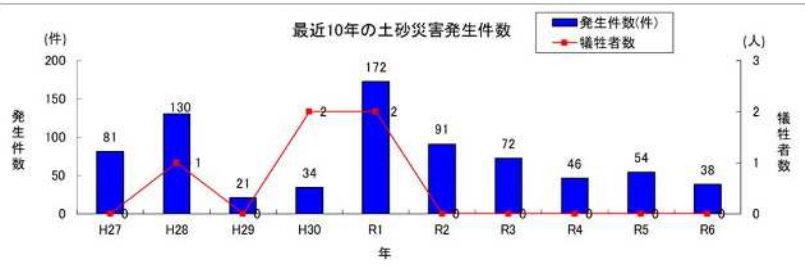




近年の豪雨等に対する砂防関係施設の整備効果

■被害の実態

最近10年（平成27年～令和6年）において、年平均74件の土砂災害が毎年発生。
最近10年に発生した土砂災害による犠牲者は5名。



■施設効果事例

最近10年（平成27年～令和6年）において、土石流等やがけ崩れを捕捉した報告が7事例あり、人家等への被害を未然に防止した。

【被害を防止した事例】

土石流等：平成28年，平成30年，令和4年
がけ崩れ：令和2年（2回），令和3年，令和4年



■垂水市・深港川

平成30年7月豪雨の時に、砂防堰堤が土砂や流木を捕捉し、下流への被害を防止しているでござる！



■鹿児島市・日枝ヶ迫2地区



令和4年9月の台風14号の時に、急傾斜地崩壊防止施設が倒木や崩壊土砂を捕捉し、周辺人家等への被害を未然に防止しているでござる！

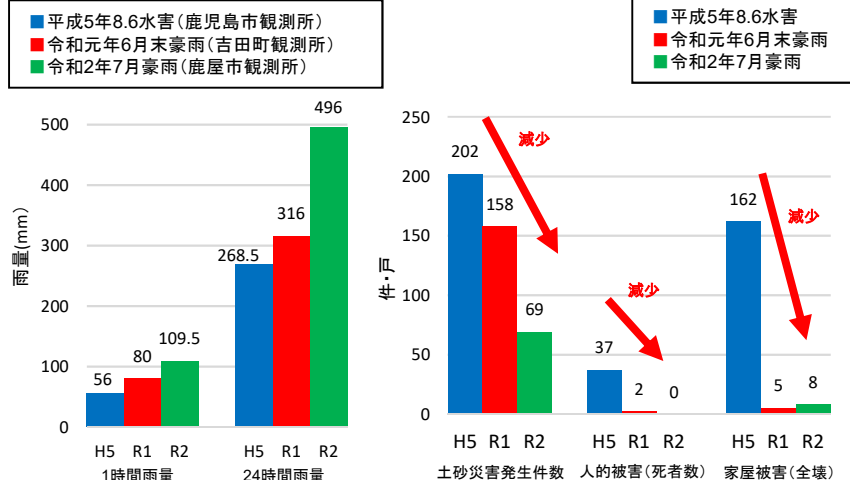


■整備効果

1993年（平成5年）の8・6水害や2006年（平成18年）の鹿児島県北部豪雨災害を受けて、大きな被害を受けた地域等に砂防関係施設を重点的に整備してきた結果、土砂災害の発生件数及び被害が減少。

【平成5年8・6水害，令和元年6月末豪雨と令和2年7月豪雨との比較】

■降水量



【平成18年北薩豪雨と令和3年7月の大雨との比較】

